

人間の経済

第2期 第 **40** 号 (通巻118号) 2006年3月12日刊

目次

外装と振、そして活業

森野 榮一

週刊マーケットレター (06年3月13日週号)

主要マーケット指標

量的緩和解除によりマネタリーベース収縮へ

大企業の設備投資の拡大続く

曾我 純

NPO法人横手ひらか地域通貨ドーモ委員会

が発行するヴェーラ型通貨、ドーモ券

森野 榮一

なり ぶり 外装と振、そして活業 たたずまい

森野 榮一

まだ若い時分に、とっばい格好をして粋がっている、

「なんてなりしてるんだッ」

と、じいさんから叱られた経験があります。

ここで、「なり」とは、江戸時代の戯作本を読みますと、外装という漢字で書き、「なり」とルビを振っている例に出会いますが、それと一緒に「なりぶりかまわず」のなりですね。装いでもあります。

「ぶり」は振りで、振る舞い、拳動のさまですね。装いと動作のしょうがなりぶり。じいさんに小言を言われた私も、相応に歳を取り、近年の若者が鼻やへそ近辺にまでピアスだのしているのを見ると、同じ言葉を投げかけたくなるのですから、いつの世も人間は変わらんなあと思ったりもします。

そんな「なり」をしていると相応の「ぶり」になる、こんな「ぶり」をしているとやはり相応の「なり」になるということがあるようです。

これは特段、個人に限らないのではないかと考えるようになりました。

例えば、まちづくりです。これが「ブーム」になってもう30年にもなるでしょうか。70年代の告発型住民運動が反省されて、より積極的にじぶんたちの地域社会を創造していく動きが続きました。行政もカネを使いました。しかし、それほど努力したのであれば、30年以上を経て、日本中、まちができすぎてしまっていてもおかしくはないのに、相変

わらず、まちは作られていかなばならないと強調されます。

地域通貨に注目すれば、たしかに、それはまちづくりに新しいノウハウをもたらしました。ハード面の整備ばかりでなく、まちはそこに生きる人々の生きる様、動きこそが大事。それがまちを作っていくのだと。生き生きと人の交流するまち、つまり、まちの「ぶり」であります。まちづくりのハード面の整備はいわば「なり」。

そうすると、まちも個人と同様に、「なり」と「ぶり」で考えるのがよさそうです。最近、まちづくり、ハードからソフトだったが、再びハードへという声も聞かれます。しかし、なりぶりで考えたほうがよさそうです。「なり」も「ぶり」も個性を作るものです。そこに居る人を彷彿とさせるまち、その「ぶり」に接するとやはり斯かるまちに生きるからかと思わせる人、まちづくりのなりぶりを考えてみたくなりました。

そこで、「なりぶり」といって連想するのが、「なりわい」。

さいきん、単にそれによって利を求めためでなく、その地にじぶんの業で生き、貢献することで自己も評価される商売を生業なりわいと書き表すを、よくみかけます。

昔を尋ねれば、なりわいに如何なる漢字をあてるかはさまざまでした。

生業はまさしく業によって生きる、ですが、まずこれを活業とも書きました。業を活かすがなりわいと。これを「しょうばい」と読ま

せる場合もありました。

人はその業^{わざ}にて人々のなか、地域のうちに生きるわけです。

為永春水は天保三年の『春色梅児誉美』で、

見ればたゞ、何の苦もなき水鳥の足
にひまなき思ひとは、人さまさまの
活業^{たたずまい}、あるが中^{おかめ}にも他見^{ことなり}には、楽
で小いきな風俗と、うらやましくも
思はるゝ、その身になりて見るとき
は…

と述べ、活業にわざわざ「たたずまい」と読みをふっています。

業を活かし、業に生き、そうしている様がまさに、その人の「たたずまい」というわけです。

地域通貨、このたたずまいになっていけば、それこそ人と町のたたずまい、すてきな風情となりましょう。

もちろん他見^{おかめ}に楽に見えても、ふだん、始終、水鳥のように見えぬところで足が水を掻くせわしなさ、しかしそうしたなりわいの、味こそ町の風味といえましょうか。

まちなりふりやステキになることでしょう。いちばんになりふりのすばらしい人々を見ることになりすから。

週刊マーケットレター（06年3月13日週号）

2006年3月12日

曾我 純

主要マーケット指標

為替レート	3月10日（前週）	1カ月前	3カ月前
円ドル	119.05(116.40)	117.85	120.65
ドルユーロ	1.1910(1.2045)	1.1905	1.1815
ドルポンド	1.7265(1.7545)	1.7435	1.7545
スイスフランドル	1.3170(1.2975)	1.3075	1.3025
短期金利（3ヵ月）			
日本	0.10000(0.09375)	0.07188	0.06500
米国	4.90000(4.85000)	4.74063	4.48000
ユーロ	2.69950(2.68750)	2.58838	2.45550
スイス	1.19917(1.18000)	1.07500	1.03250
長期金利（10年債）			
日本	1.670(1.620)	1.595	1.555
米国	4.75(4.68)	4.58	4.52
英国	4.35(4.25)	4.17	4.33
ドイツ	3.67(3.58)	3.48	3.43
株 式			
日経平均株価	16115.63(15663.34)	16257.83	15404.05
TOPIX	1647.27(1612.96)	1660.22	1591.23
NY ダウ	11076.34(11021.59)	10919.05	10778.58
S&P500	1281.58(1287.23)	1266.99	1259.37
ナスダック	2262.04(2302.60)	2261.88	2256.73
FTSE100（英）	5907.9(5858.7)	5764.1	5517.4
DAX（独）	5804.92(5721.46)	5701.47	5282.13
商品市況（先物）			
CRB 指数	319.42(331.34)	331.60	327.81
原油（WTI、ドル/バレル）	59.96(63.67)	61.84	59.39
金（ドル/トロイオンス）	539.9(566.0)	550.2	527.0

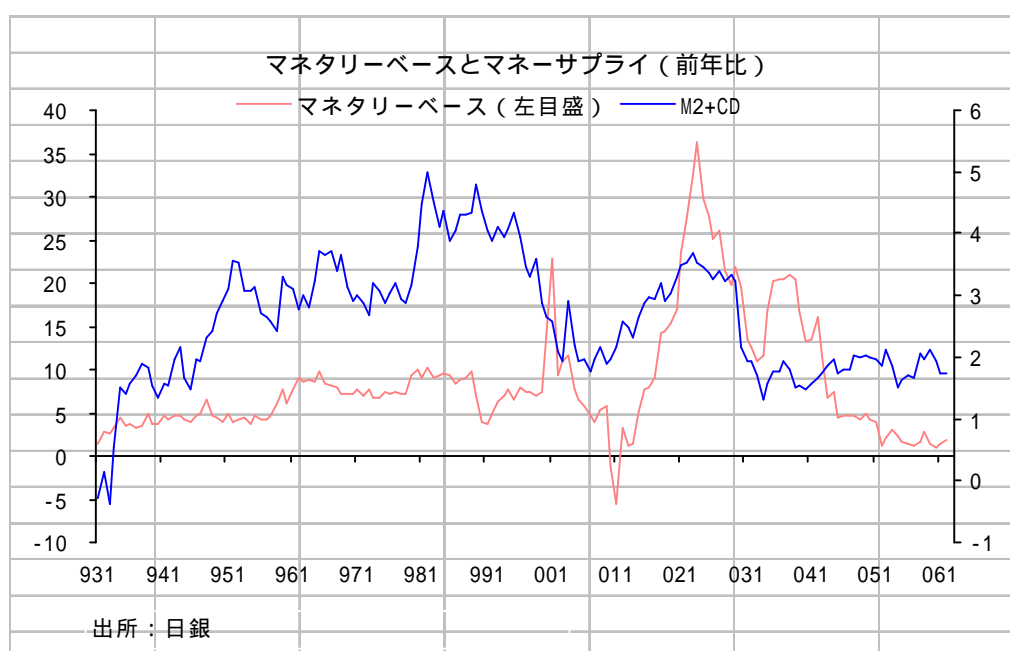
量的緩和解除によりマネタリーベース収縮へ

3月9日、日銀は01年3月に導入した量的緩和の解除を決定し、即日実施すると発表した。金融市場調節の操作目標を日銀当座預金残高から無担保コールレート（翌日物）に変更するが、日銀は現状と同じゼロ%で推移するように促すことを声明に書きとめた。

新聞は量的緩和解除をトップ記事として大々的に報道したが、量的緩和とはなにかについて核心を突く記事はみられなかった。準備預金の調整は政策金利の変更と並んで金融政策の中心をなす。銀行は預金の一部を日銀に無利子で預ける仕組みが準備預金制度だが、

法律で定められた金額以上の預金を日銀に預けることは、それだけ銀行にとっては貸出等運用にまわす資金が少なくなることであり、金融引き締めになる。預金が貸出され、貸出が他の銀行の預金になるという貨幣の流れによって信用が創造されるが、銀行預金のうち日銀に預ける割合が大きくなれば、信用は収縮することになる。

他方、日銀当座預金はマネーベース（MB）の構成要素であるから、日銀当座預金の増大はMBを増やすことになる。事実、MBは01年1月の前年比5.6%減を底に著しく伸び、02年4月には36.3%へと急増した。だが、MBの急増に比例してマネーサプライも拡大したかということ、そのように活発には増加しなかったのである。貸出の減少や定期預金から普通預金へのシフト等、信用創造を低下させる要因が力を増していたからだ。



02年2月をピークにMBの伸びは低下していくが、それでも04年3月までは2桁増であり、实体经济に比べればMBは過剰な水準にあったといえる。04年以降、量的緩和が拡大されなかったため、MBの伸びは低下傾向を辿り、昨年央からは2%以下の伸びで推移している。MBは日銀当座預金で高上げされていただけであり、その効果も出尽くしていた。实体经济は回復しているとはいえ、貨幣の流通速度は低く、日銀券需要は回復しているような状況ではない。

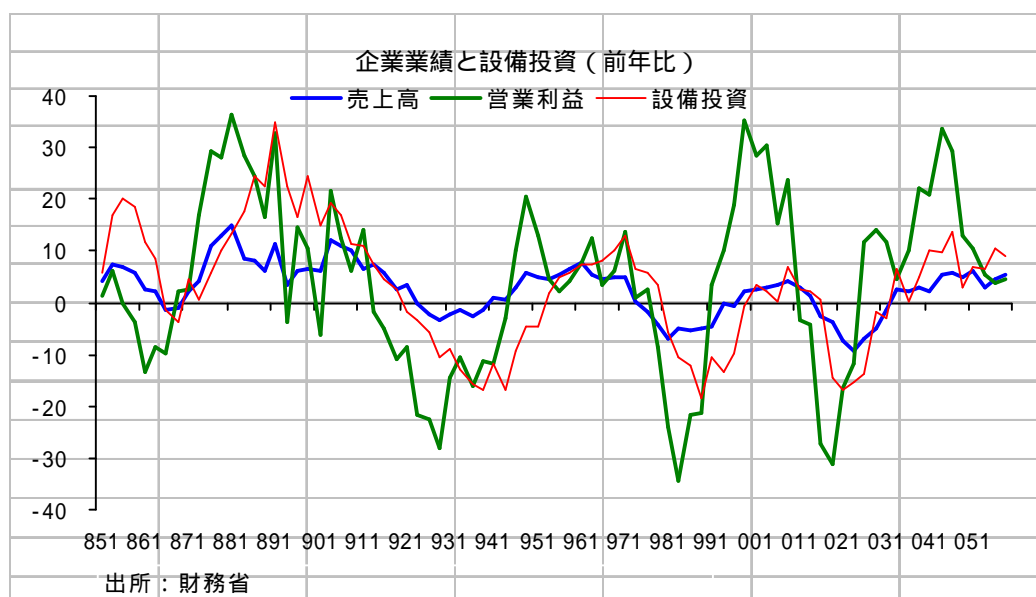
06年2月のMBは111.4兆円、01年1月から約40兆円増加したが、日銀券は15兆円弱の増加にとどまった。MBのうち日銀券の占める比率は01年1月の82%から06年2月には66%に低下した。4月以降、30兆円を超えている日銀当座預金を法定準備預金額に近づけていくことになるが、そのときMBの約3割を占める日銀当座預金の減少は、MBの大幅な減少に繋がるだろう。マネーサプライをMBで除した比率は、日銀当座預金の度重なる引き上げにもかかわらず低下し続けていたが、04年以降は6倍台で底這いだ。ゼロ金利が続く見通しでは、マネーサプライ・MB比率の大きな変化はなく、MBの減少はマネーサプライにもマ

イナスの影響を与えるであろう。

2月のマネーサプライ（M2+CD、707.7兆円）は前年比1.7%とMBの伸びを0.2ポイント下回ったが、昨年6月以降、両者の伸び率は接近してきた。現金通貨や預金通貨の伸びが拡大する半面、準通貨はマイナス幅が拡大している。郵便貯金等を加えた広義流動性（2月、1,415.7兆円）は前年比1.7%と昨年2月の4.2%から鈍化傾向を強めている。外債が22.1%と引き続き好調だが、郵便貯金の減少や国債等の伸び率低下などにより、広義流動性の失速が目立つ。日銀当座預金を28兆円も減少させれば、MBは前年を大幅に下回ることになり、マネーサプライ等の指標も相当攪乱することになるだろう。

大企業の設備投資の拡大続く

『法人企業統計』によると、10-12月期の売上高は前年比5.5%と2期連続で拡大した。営業利益は4.5%と前期を0.8ポイント上回ったが、売上の伸びにとどかなかった。製造業は10.9%増加したが、非製造業は-0.1%と僅かながら減少した。



原油高等の一次産品価格の上昇が原価を押し上げており、売上原価率は78.5%、前年比0.8ポイント上昇した。販管費比率は17.9%、同0.7ポイント低下したため、売上高営業利益率は前年同期と同じ3.7%を維持することができた。販管費の伸びが低く、売上原価を抑制できたのは従業員給与を前年比2.6%増と売上高の半分以下とし、従業員数の伸び率（2.9%）以下にとどめたからだ。給与総額はプラスだが、一人当たり給与は前年を下回った。

営業利益の伸びは低下しているが、設備投資は8.8%増加し、これで11四半期連続のプラスである。IT景気のときをすでに4四半期上回り、景気拡大を支えている。規模別では、設備投資に慎重な大企業が13.6%と積極的に拡大しており、これで4四半期連続の2桁増である。大企業がこれほど設備投資に入れ込むのは14年振りだ。ただ、大企業の設備投資は

景気に遅行する傾向があり、景気が減速してもなお拡大するというのがこれまでのパターンであった。営業利益の伸びはすでに1桁に落ちてきており、再浮上しなければ、期待収益の低下から、設備投資が冷え込む時期が近いことも想定しておく必要がある。

NPO法人横手ひらか地域通貨ドーモ委員会 が発行するヴェーラ型通貨、ドーモ券

森野 榮一

昨年(2005年)9月、NPO法人横手ひらか地域通貨ドーモ委員会さんのご招待で秋田県横手市を訪ねる機会がありました。

どこも地域はよく似ています。駅前から始まる中心市街地は衰退し、郊外に展開する全国資本が興隆を極めていきます。中小事業者の苦境が駅を降りるとすぐに目に入ります。

加えて、ドーモ協力店である駅前の宿泊予定のビジネスホテルに入って、テレビを付けましたら、ちょうど、秋田県の事業者への景況感調査の結果を報じていました。以前より景気が悪くなったとの回答は8割台、良くなったはなんと8%台でした!ディフュージョンインデックスを計算したらどうなりましょう?まったく、世間でいう長期にわたる好景気など、地方には無関係の、たんなる、大手中心の<リストラ>景気にすぎなかったのではないかと考えさせられたものでした。



図 1: 減価率 0% のドーモ [表]

そんななかで、ドーモが開始されて3年、着実に根付きはじめ、本格運用に向けた展望が出てきていることを知りました。

ドーモは戦前ドイツで商業者の広範な支持を得

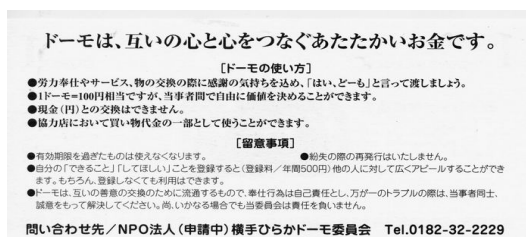


図 2: 減価率 0% のドーモ [裏]

たヴェーラタイプの減価する紙券¹ですが、最初の一年間(2003年)、ドーモは減価の仕組みを入れ込まない減価率0%の紙券として発行されました。そして、二年目から、循環促進を目的として、保有・保蔵すると時間の経過のなかで減価する通貨となりました。



図 3: 0.5年度減価型ドーモ [表]

3か月に10%の持ち越し税がかかります。3か月経過すると同NPO法人が発行する「シール」を貼付しないと額面価額を維持できないスタンプ

¹ヴェーラタイプの紙幣については、「ヴェーラ交換協会会則」(Satzungen der Tauschgesellschaft; Angenommen in der Sitzung vom 20. Okt. 1929 in Erfurt 交換協会会則(1929年10月20日、エアフルトにおける会議にて承認)) 斎藤由紀子訳、「人間の経済」、第2期第39号(通巻117号)2006年3月5日刊参照。

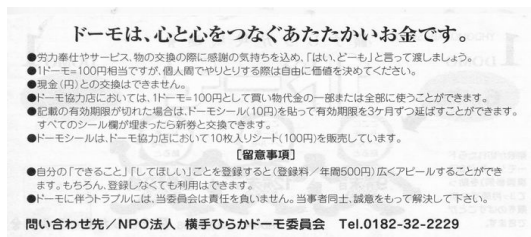


図 4: 05 年度減価型ドーマ [裏]

貼付型の自由貨幣（減価型通貨）となっています。1ドーマは100円相当ですから、1ドーマ用のシールは10円で購入します。5ドーマ、10ドーマ用のシールもそれぞれ販売されています。

同法人の活動には現在、行政からの支援が行われているようですが、将来、ドーマが起動に乗っていけば、保有防止と循環促進のための負荷である、この「シール」売上が同法人の運営コストを賄っていくことでしょう。

ドーマはなぜ支持される？

ドーマの参加店は、地の中小事業者さんたちで、訪問時は40数店舗ありましたでしょうか、現在はもっと増えていると思われます。

しかし、事業者以外の参加者はわざわざ大事な円貨をドーマに換えるのでしょうか²。それも、もっていると減価してしまい、シールを貼らねば額面を維持できない通貨に換えるわけです。

それは同法人の理事さんの予想に反していたようですが、近隣のつきあいにおけるお返し（返礼）として活用されるのだそうです。おめでたい結婚式などの慶事、あるいは仏事などで、通常はモノを返して、参加者は重い思いをして持ち帰ります。最近では、葬祭業者などが、事後にデパートなどで使用できる券を扱っているようですが、ドーマはそれに比して、地元の馴染みの参加商店で使えることがメリットになっているようです。つまり地

²円貨のドーマ券への変換は「寄付」という考え方をしています。

域振興のための共助のツールとしても働くという点です。加えて、シールをはり続ける限り（三回貼ると換券が必要ですが）永久運動して、購買力となり続け、事業者への支援を行います。まさに、地域通貨ならではの効果が支持される理由となっていると観察されました。

ドーマ券は、事業者さんは望めば、毎月末に保有する券を現金に交換できます。顔と顔が見える域内の関係を重視したいとのNPOの考えで、NPOは各商店を訪ねて、現金へのチェンジをしているそうですが、それは驚くほど少ないそうです。入金したドーマ券は業者間の取引などで使ってしまうのだそうです。私が訪れて講演をさせていただいた時も、その後の交流会を参加しておられる居酒屋で行いました。円貨とかかわらず、それと合わせてドーマ券を支払う光景が見られましたが、その居酒屋さんは、そのドーマを仕入れに使うのだそうです。

事業者にしれみれば、円貨は喉から手が出るほど欲しいものですが、毎月末に円貨と交換できるという安心感がドーマを受け入れさせていることをうかがわせます。

相互共助で地域振興

ドーマは関与する誰にとってもプラスの効果をもつようです。NPOはこの仕組みがうまくいけばいくほど、存続していけます。事業者さんはドーマを受け入れることで地域の支持を受けます。消費者は、多様な商店が立地・営業する魅力的な地域での暮らしを享受できます。日々に消費するものにドーマを使えば、ドーマ券の持ち越しに係る費用は負担しなくてすみますし、100円を1ドーマに換えることになんの損もありません。さらにドーマ券を贈り物に活用するときは円貨を使うよりも人間関係をスムーズに運べることでしょう。もちろん事業者さんにはプラスです。域内の需要をドーマが連れてくるからです。

そうして、行政にとっても、この仕組みは住民の自発的な取組として地域の振興の実をあげるも

のですから歓迎です。地域全体でみても、ドーモに換えられる円貨は必ず域内で循環し、回れば回るほど、換えられる前の円貨の額を超えて、その何倍もの経済効果を発揮するわけです。

ゲゼル研究会では第二期「人間の経済」誌の原稿を募集しています。

ゲゼル研究会では会誌、「人間の経済」を刊行してまいりましたが、会員の各地に叢生する地域通貨の動きへの関与等により、刊行継続の体制がとれず、1年ほど休刊のやむなきに至っております。

しかし、社会経済状況の変化や多様化する各地の貨幣改革の展開を見るに、時宜を得た会員の諸研究を世に問う必要性を痛感しているところです。

また、各地からの問い合わせ、情報提供の依頼も多く、会としての系統的な情報の提供、焦眉の課題に関する研究成果の迅速な公開の必要性も強く感じてきたところです。

今般、体勢を立て直し、会誌「人間の経済」再開（第二期創刊）に取り組むこととなりました。

基本的な会誌の性格は第一期と変わるものではありません。

理論的な研究から各地の取り組みの現状、そのナマの声まで、多様なテーマの論考を掲載していきたいと考えております。

広く論考を求めていますので、諸姉諸兄のご支援、ご協力をお願いいたします。

第二期、「人間の経済」、簡易印刷板、及びHPでのPDF版提供

不定期刊

投稿資格 特に設けず

投稿 常時受け付

投稿論文の著作権は著者に帰属

原稿料はありません

ご連絡は info@grsj.org まで。

編集・発行 **ゲゼル研究会**

221- 0021 横浜市神奈川区子安通 3- 32 森野榮一 気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> info@grsj.org